

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600639		
法人名	医療法人 誠真会		
事業所名	グループホーム おかもと Bユニット松		
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者皆様がホームでの生活を自宅と同じ位、又それ以上に安心して過ごしていただけるように、日常生活の支援を行なっています。入居者様と職員が共に笑顔で過ごし、ゆっくりと安らげ、安心した生活が維持できる、地域に密着した「家」作りを目指しています。
隣接する鉄筋3階建ての有床診療所があり、井戸水もあるなど災害時の避難場所おとして、地域市民の拠り所となる環境整備が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員はこの1年入居者支援の柱である理念について今一度一つひとつの言葉を具体化し、更に心にとどまる様あらゆる機会に唱和している。ユニットごとに月目標を設定することでより身近に理念を捉え、支援の充実が図られている。管理者は常に入居者が明るく笑顔になるような声かけをすることで、孤立を防ぎ、互いが何でも言い合えるホーム環境に繋がるとしている。定例開催が実現している運推進会議には入居者も同席し、大勢の中で思いのままを発言してもらうことで本人の自信に繋がり、ホームの透明性が図られるなど地域交流の重要な機会となっている。本人・家族の意見や要望は些細なことでも検討し、入居されても選挙権の行使や様々な場面で自主決定を尊重し入居者主体の支援を継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人を大切に安心して尊厳のある生活を守り地域に密着し入居者様にゆとりと笑顔がこぼれるホームを目指すことを理念としてミーティング、定例会議時に唱和している。又月刊目標も掲げている。	ホームの理念は入居者を支援する際の重要なケア規範でもあることを管理者をはじめ全職員が十分認識し、掲示やミーティング・定例会議時の中でも心を込めて唱和されている。また、職員採用時や新人研修の中で理念の説明が行われており、介護経験の有無にかかわらず、自身の持ち味を出して業務にあたって欲しいことなどが伝えられている。両ユニットは介護度など入居者の状況も異なることから、月目標を別々に掲げ、理念にある「一人一人を大切に、ゆとりと笑顔こぼれるホーム」に真摯に取り組んでいる。	理念を大切にする思いが伝わり、家族への説明も行われていることが確認された。ホームの良き理解者の参加による運営推進会議には入居者も出席しており、今後は啓発や浸透に繋がるように全員での唱和も有効かと思われる。取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商店街の夏祭りに職員は地域の一員として参加している。ホーム主催の花見、餅つき等のイベントには区長様老人会長様をはじめ近隣地区の小学生等の参加が多くあり入居者様と賑やかな時間を共有することが出来た。又餅つき終了後近隣の独居高齢者へ、つき立ての餅を配布し、他にも敬老の日には子供会の訪問がある等の交流を行っている。	地域医療に貢献を続けている母体医療機関の運営するホームでもあり、開所時から地域の人々の理解が入居者の日常生活を豊かなものにしていく。商店街の夏祭りなど行事やイベントには積極的に参加協力をしており、ホームの食材もできるだけ地元の店を利用している。また、一人暮らしの高齢者宅へつきたての餅を届けたり、人材育成の一環として専門学校の実習や中・校生の福祉体験の受け入れなど出来る地域貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献のひとつとして地域の専門学校や中学生及び高校生の職場体験の受け入れを行なっている。	n	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催で行政や包括支援センター、区長、老人会長・ご家族様、入居者様も参加して近況報告や意見・要望を聞き質疑応答を行なってサービス向上に反映させている。	定期的な会議は地域代表者や行政・包括・家族に加え、多くの入居者も参加して開催されていることはホームの大きな特徴である。議題は特段に決められてはいないが、毎回参加者の立場から情報提供や質問が行われており、有意義な会となっていることは書面からも確認された。また、法人代表者も必ず出席し、参加者への感謝とともに忌憚のない発言を求め、変わらぬ協力を依頼している。	家族へも会議の案内を出しているが、参加者が固定していたり出席のない月もあり、今後も家族に関心を持ってもらうような取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二ヶ月に一度、運営推進会議の場を設け意見や要望を伝えたり情報の交換を積極的に行なっている。	行政より運営推進会議への参加が得られており、ホームの現況は適宜伝達し必要なアドバイスを受けている。会議の中でも「新しい公舎となり是非見学に来てください！」と、発言されるなど身近な存在となっていることが窺われた。また、法人顧問とも連携し、不明な点は直接出向き指導を受けていることが聞き取りからも確認された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会において入居者様の状況報告を詳細に行い、その際身体拘束の可能性についても議論しており職員は身体拘束に関して、ドアに鈴を付ける等の工夫をして身体拘束がない様なケアに努めている。	市が主催する研修会への参加や、ホーム内でも拘束のないケアの実践について共有する機会を持っている。定例会の中で入居者の状況報告は詳細に行い、拘束の可能性についても議論し、最善の策をしっかりと検討している。また、職員の言葉や対応も拘束に繋がる場面がある事を管理者は事例を通して指導しており、基本的に敬語で笑顔を持って対応することが周知徹底されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで研修会を行い虐待の可能性について議論する等して身体的なものだけではなく精神的な虐待もおこらない様に細心の注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会に参加し理解を深める様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結も際の重要事項等の説明については納得頂くまで説明しており、承諾を得て成立している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの不安・意見・苦情等は些細な事でも聞きその言葉や態度から思いを察する努力をし各ユニットで改善点を話し合い日々のケアや運営に反映させている。ご家族様のご意見、ご要望については面会時や年1回開催している家族会で自由に発言を行なって貰うように働きかけている。又出された意見についてはミーティングで話し合い、それを運営に反映させている。	意見や要望は些細なことでも改善に向け対応していくことが重要であるとし、職員は入居者の言葉や表情にいつも思いを馳せケアにあたっている。生き生きと業務にあたる職員の姿は家族の信頼にも繋がっており、面会時には話しやすい雰囲気心がけ、出された要望には早急に対応している。面会簿の設置場所の検討依頼や、職員の顔写真、出勤職員がわかるようにして欲しいなどの要望が出され、早急に改善が図られている。	今後も入居者・家族の要望に応えるサービスが展開出来る様、職員間で内容を検討しアンケートを実施されることも期待される。また、出された要望には早急に対応しており、今後は小さなことでも記録に残しておくことが必要と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議や申し送りで職員は意見や要望を発言できる、定期的に役員会議を実施しその意見を経営者に伝えつ様にしている。	職員の意見や提案は定例会議や申し送り時をはじめ、管理者は共に業務にあたるものとして何かあればいつでも話して欲しいと伝えられている。新人職員には勤務3ヵ月後の個人面談で不安や何か気になることはないかなど確認し、安心して働けるよう配慮している。また、代表者も可能な限りホームを訪れ入居者や職員と会話をしながら、現状を把握しており出された意見などへの対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している、又職員の資格取得に向け支援を行いそれが活かせる業務環境がつけられている。年一度職員の定期健診を行い心身の健全育成に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH連絡会玉名郡市支部会や他協会の研修・学習会に職員は順番に参加し、その後の定例会議で報告を行なっている。又後日その内容を定例会議の議事録と共に回覧し全職員が閲覧できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、玉名郡市支部会や連絡会での研修事例検討を通じ意見や経験をケアに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、ご本人・ご家族様の不安や求めている事を尋ね入居者様の問題点をご本人の立場で受け止められるよう努め信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでご家族様がどの様な苦労がありどの様なサービスを利用してきたのか現在に至るまでの経緯について話し合い相談相手として信頼して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族様の思いや状況等を確認して現在必要とされている支援について他事業所サービスも含め説明紹介出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者様を敬う気持を全職員が持ち生活の知恵や文化、作法等について教わる機会もあり食後の団欒等話し合い場面の設定に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いや困りごと等の話し合いをする機会を日常的に持つ様にして悩みや問題を共有し共に協力しながらご本人様を支える事が出来る様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に行きつけの理、美容室等行かれ職員と一緒に買い物等でかけている、又ご家族様や知人友人の面会の際ゆっくり過ごして頂ける様な環境作りに努めている。	入居者にとって馴染みや慣習を継続できる環境を作っている。餅つきや初詣・節分の豆まきなど様々な取り組みは、運営推進会議の中でも紹介されており、入居者にとって楽しみな年中行事となっている。歌を詠むことが趣味であった方が、外出時に読まれた「たんぽぽはわが身をけずってどこへいく」のうたは、ほのぼのとした日常を物語っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の相談に乗ったり入居者様同士の関係が悪くならない様職員が介入し調整役となり食卓の配置にも気を配り、皆で楽しく過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ転所される場合アセスメント、ケアプランや支援状況等を提供し情報交換を行っている。サービス終了後も行事等の案内を送付している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントをはじめ、日々の生活の中で寄り添い関わる事で相手の思いを理解しご家族様と共にご本人様の希望に添う暮らし方を検討している。	職員は入居者との関わり時間を大切にしておき、寄り添いながら何気ない一言にも思いを寄せ支援できるように心がけている。また、入居者の代弁者である家族にも本人の思いなどを聞き取りプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントをはじめ、日々の関わりの中でそれとなく情報収集が出来る様に関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人の生活のリズムを理解すると共に日々変化する状況を記載し全体的な状態について把握出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様とご家族様の意見を元に職員の意見を反映させ介護計画を作成し、又作成後はご家族様に説明し同意を得ている。定期的にモニタリングを行い介護の可能性について議論し計画の改善に努めている。	個々の趣味や特技が活かせるプランを立案している。自身の誕生日を前に自ら花の購入に出かけ、花器に生けられる方や、本人のモットーである「楽しく行きましょよ！」の言葉が活きるような支援が実践されている。面会時には必ず、要望を聞き取り、新たな支援に繋げる努力をしている。また、プランの説明にあたっては分かりやすい言葉で確認を行いながら進め、了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体表、身体状況チェック表で個人の状況を時間を追って記載している、又日々の暮らしやご本人様の言葉、職員の気づき対処した事を記録し朝夕の申し送り時カンファレンスを行ない計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況やご本人様の状態に応じて必要な受診がある場合や外出希望時の送迎等も速やかな対応が出来る様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様と地域とのさまざまな接点を見出せる様に地区の区長様と話し合い相談を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけの医療機関への受診介助や送迎等を行なっている、ご家族様の協力が得られる場合には受診をお願いして他の医療機関との関係を保つ様になっている。又突発的な医療機関の受診が必要な場合には主治医の紹介を通じて受診治療が出来る様に支援している。	これまでのかかりつけ医を支援しており、介助や送迎を行っているが、家族が受診同行が可能な場合は依頼している。現在は殆どが母体の医療機関をかかりつけとしており、医師も可能な限りホームへ立ち寄り、入居者も医師の来訪を心待ちにされているようである。専門的な治療を必要とする際は、主治医より紹介状を受けるなど、他の医療機関と連携を図りながら入居者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており隣接医院の看護師との連携を図り、入居者様の健康管理に努め異常時には速やかに適切な受診を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師・ご家族様と情報交換を頻繁に行い安心して治療が出来る様に、又早期退院が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様・医師・職員を交え終末期の対応方針を話し合い全員で共有し、また変化が有るごとに、ご本人様・ご家族様の意向を確認し支援に努めている。又ご家族様に延命治療について説明を行いアンケート調査を実施している。	終末期や延命処置についてのアンケートを実施している他、看取りについて職員との話し合いを行っており、状態が悪化された場合、医師と話し合うこととしている。高齢化や重度化の現状もあるが、職員の生き生きと業務にあたる姿は、利用者・家族の信頼や安心するところであり、現在は協力医との連携を図りながらホームに出来る最良の支援に尽力している。	今後は看取りに関する指針の作成や、現状を踏まえながら職員のメンタル面にも配慮した研修会の開催も必要と思われる。また、縁あって入居された本人・家族にとってこれからも温もりのある時間を過ごせるホームに努めていかれることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	速やかに隣接の医院へ連絡して直ちに医師・看護師の処置が行なわれている。救急時の心配蘇生法の研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し定期的に消防署の協力を得て年2回火災避難誘導訓練及び消火器の取り扱い方法等訓練し全職員が災害時に対応出来る様に努め、訓練には近隣住民の協力と参加も得ている。	消防署の参加協力により、ホームや隣接した母体医療機関を出火元とした火災避難訓練を実施している。6月のホーム2階を出火場所と想定した訓練では、①日頃から煙の回りを考える、②常に近隣者に連絡が取れない時は次へ次へと進む！、③電話ではなく大声で叫ぶなどの指導を受け次回に活かす事を共有している。また、先ずは火を出さないことを一番に、毎日の安全チェック(ガスレンジ台の元栓・施錠・タバコなど)が21時に行われている。備蓄については床下に収納を行っている。	災害対策については運営推進会議の中でも議題に上げ話し合われており、今後も入居者の安全管理に尽力いただきたい。また、台風接近時は対応が検討されているが、自然災害の被害を風化させないためにも、机上訓練など職員の意識を図る機会を持つことも必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴の声掛け誘導等プライバシーや尊厳を守る接し方に配慮して行なう様心掛けています入室時には必ずノックし又入室に不在の際はご本人様に了解を得て入室する様にしています。	トイレや入浴支援に限らず、入居者の尊厳に配慮した対応について職員の共有に努めている。呼称は苗字にさん付けを基本としているが、下の名前の方が安心される方については、家族の許可を得ている。同性介助を希望の場合は、職員が交代して対応している。入室時は必ずノックすることとしており、食事中、居室から携帯音がなり本人の了解を得て部屋に入る職員の姿も確認された。	居室内には入居者の状況に応じた排泄用品が置かれているが、クロスを掛けるなど職員のひと工夫に期待したい。また、職員自身が馴染みの関係ではあるが、今後も馴れ合いの言葉になっていないかなど、人生の先輩への対応について振り返りシートなどを作成し、自身の意識づけを図られることも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせて声掛けや対応の仕方を工夫しご本人様に説明し納得した上での自己決定をしていただける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちに配慮しながら一人一人の一日の過ごし方に出来るだけ添える様、食事時間や起床、就寝時間は各々のペースに合わせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の協力を得てご本人様の希望に合った髪型、が出来る様に送迎支援を行っている。洋服は基本的にはご本人様を選んで着用していただいている自分で出来ない方は介助が必要な時は手伝う様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたい物を聞きバランスの摂れたメニュー作りをしている調理の下ごしらえ後片付け等も興味がある方は一緒に行い入居者様が同じテーブルに座り、同じ物を食べ楽しく食時が出来る様に配慮している。	それぞれのユニットが異なったメニューを提供しており、食材は地域のスーパーより配達され、不足の物は職員が購入に出ている。誕生会では赤飯と鯛の切り身を祝膳として用意され、入居者も大変喜ばれているようである。また、恒例のさんま焼きの際は煙の少ない炭を使用しながら季節の食事を楽しんでいる。ドライブ先でのバイキング食や、回転寿司利用時は事前に通路側を依頼したり、入店時間を伝えるなど、店側の理解や協力が得られている。	入居者は下ごしらえや片付けなどできることを支援し、職員も同じものを見守りや介助を行いながら一緒に摂っている。今後も郷土食や季節の料理を味わえるように支援いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を活用し毎食の摂取状況を記録し職員皆で確認出来る様にしている。食欲減退時は医師、看護師に報告し支持をもらえる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い個々の能力に応じて見守りし介助を行なっている。又就寝前の義歯ポリデント洗浄を行なっている。夜間は義歯を必ずはずしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人一人の排泄パターンを職員全員が把握しさりげなく声掛けをしトイレ誘導を行なっている。	個々の排泄パターンを全職員が把握しており、日中はトイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間は紙パンツの方も昼は布下着を着用されるなど個々に応じ対応している。職員はトイレ内の臭気などないよう清潔を心がけ自立の継続を後押ししている。排泄用品についても検討を行い、面会を兼ねてできるだけ家族へ持参してもらおうようにしている。また、失禁時は毎日の入浴を支援し、紙パンツを使用される方には必ず清拭後に着替えを行い、気持ちよく過ごせるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物繊維が多く含まれる食品や乳製品を献立に取り入れている。又軽体操や戸外散歩等で体を動かしていただき便秘予防に努めている。又医師の指示を受けることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を強く拒否する方は、前日より声掛けをし「入浴日」自室に貼付する事でスムーズに入浴される様になった。又他の方はその時の体調等考慮してその日の希望を確認し入浴していただいている。	職員の勤務体制により一人一人の希望に応じた入浴は困難な状況であるが、浴室の床に座って身体を洗う方もおられるため、綺麗な浴室環境を整備して現在は、週3～4回午後からの入浴となっている。また、ゆっくりと安全な入浴を支援しながらも、自身で洗える範囲は行ってもらうなど機能維持にも配慮しながら取り組んでいる。拒否の場合には、入浴を促す張り紙を居室に掲示するなど、無理のないスムーズな支援方法を職員間で検討している。	身体状況に応じた浴槽が選択されており、湯船に入るといことは、入居者にとって何より気持ちの良い時間であると思われる。今後、菖蒲や柚子など季節湯を支援する際は、啓発ポスターを掲示することで更に、入居者の楽しみや来訪した家族との会話にも繋がっていくと思われる。取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や活動量を考えてゆっくりと休息が取れる様に食事の時間やお茶の時間を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の内容を記録し変更時は日付と薬名を記入しカーインデックスに職員皆見れるように貼付している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯物たたみ等の家事を中心としたお手伝いをお願いしている。又始めと終わりには感謝の言葉を伝える様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添った外出、買物、散歩の付き添いも行なっている。季節ごとに日帰り旅行やコスモス・花しょうぶ、ふじの花見等も、ご家族様も参加され実施している。	開所年数に伴いADLの低下された方も多いが、家族の参加も呼びかけて季節の花見や、買い物・散歩などの外出に努めている。また、4月初めに予定されている恒例の地域公園での桜の花見告知が掲示されており、入居者も楽しみにされているようである。この花見においても、現地で弁当を楽しむ方やホームに帰り食べる方など希望や身体に無理のない範囲で取り組んでいる。また、学生の研修生の力を得ながら日帰り外出も計画されている。	全体での外出は年々困難な状況になっているようであり、今後も個別支援の充実が期待される。また、1階・2階のユニットも近隣宅と捉えながら、身近な外出の場所として変わらぬ交流を楽しんでいただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、基本的には事務所保管で個々の金銭出納帳に領収書を添付し(複数で確認)定期的に御家族様に確認、サインをしていただき管理支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人に合わせて電話を架けられる様にしている、又自分で電話を架ける事の出来ない方は職員が介助を行なっている。通話中はそれとなく席を外す様にしている。携帯電話も気楽に使っていただく様に配慮も心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテレビの音量には気を配り心地よい音量で聴けるよう配慮している。又月ごとのカレンダー作りの飾りつけ、色塗りを一緒にしたり、ゆず・しょうぶ湯・おはぎ・さんま焼等の旬の食材を使い季節を感じられるようにしている。	入居者一人ひとりを大切に、ゆとりと笑顔がこぼれるホームに全職員が一丸となって取り組んでいることが、ユニットの垣根を越えた居心地のよい空間を作り出している。1階・2階の採光具合は異なるものの玄関先や2階のベランダに植えられた花々、ホール内の月ごとのカレンダーなど、季節感のある空間が入居者の穏やかな時節に一役かっている。また、高齢の方の体感温度を常に意識して、温室度計を活用しながら調整している。日々の安全チェック項目の中には火気に限らず、洗剤の収納や危険物(包丁・ハサミ)の項目を設け、共用空間の安全にも努めている。	新年度を迎えるにあたり、掲示物や飾り物について長年貼り続けているものが必要かどうか見極め、新しく印刷しなおしたり、見やすくするなどのひと工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士のテーブル席を作り、食後談笑出来る様にしている、又玄関ホールには椅子や小さなテーブルを置き生花や写真等で装飾し空間を活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様にご本人様と話し合い、家具や身の回り物等、使い慣れた物を出来るだけ多く持って来ていただくようにしている。居室には個々によって、仏壇・マッサージチェア・テレビ・ご家族様の写真を置いたり御自分で刺繍等をされた作品等持ち込み自室に飾られ昔の写真等も置かれている。	入居したホームの部屋で安心や温もりのある時間を過ごせるよう、本人や家族と一緒に持ち込みや必要な品について検討している。携帯電話を持ち込まれている方もおられ、近況や予定を家族と話される姿は自宅の何気ない一コマのようであった。また、持込の多い部屋は特に整頓を心がけており、転倒があったことを心配される家族から、「部屋で休む時は様子がわかるようにドアをあけて見守りをして欲しい」など、安全面への居室環境にも十分配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様にとって出来る事や理解出来る事が困りごとの原因を、いち早く察知し職員で話し合い状況に合わせながら環境を整えていく様工夫している。又DLルームのコンクリートの柱等は転倒の際危険があるので検討が必要。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600639		
法人名	医療法人 誠真会		
事業所名	グループホーム おかもと Aユニット故郷		
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様がホームでの生活を自宅と同じ位、又それ以上に安心して過ごしていただけるように、日常生活の支援を行っています。入居者様と職員が共に笑顔で過ごし、ゆっくりと安らげ、安心した生活が維持できる、地域に密着した「家」作りを目指しています。また、病気や怪我に対しても、併設の医院より、24時間体制でDRやN.Sの対応が可能であり、利用者様、御家族様にも安心感を得られ、隣接する鉄筋3階建ての有床診療所があり、井戸水もあるなど災害時の避難場所として、地域市民の拠り所となる環境整備が整っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全体で確認し、地域に密着しゆとりと笑顔のこぼれるホーム作り「家」を目指すことを掲げケアの統一を図って理念を大切にしている。また、毎日の申し送り時に、理念の唱和を行い、理念の意義を毎日再確認してもらうよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	イベントのお知らせや声掛けで参加を得ボランティア団体の日舞や近隣の教育、学校の職場体験の受け入れや、又、ボランティアで当施設の行事に参加、手伝いを協力等していただいたり様々な交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行い介護現場を見学したり補助をしてもらうことにより、直に触れ合ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催で近況報告や意見要望を聞き、質疑応答を行なって日常の中で改善すべき事項を提示し、次回の推進会議には、取り組み状況や解決の報告を行い、サービス向上に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や認定調査の機会に市町村担当者へ入居者様の暮らしぶり等も伝達し連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を良く理解し、外出の傾向や心情を察知し、納得させる様な対応や、入り口ドアにチャイムを取り付け未然に防止し、さりげない声掛けや傾聴したり、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。又状況に応じて戸外散歩やスタッフ同伴のドライブや買い物も行う様にしている。日常的な身体拘束に関しては、研修や管理者からの指導を受けた知識で、日々職員同士が声を掛け合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体表、身体状況チェック表で個人の状況や時間を追って記載している。又、日々の暮らしや御本人様の言葉、職員の気づき対処にした事を記録し、朝夕の申し送り時にカンファレンスを行い、計画の見直しに繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加により学び、対応が必要な方があれば随時職員に説明アドバイスをし支援に結び付けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧かつ十分説明をする余裕がなく重要点のみ説明、疑問点を尋ね理解納得を得ている。後日ご家族様より不十分な所等問われた時は、追加説明も行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や態度から思いを察知し、努力しケアに活かしている。又推進会議や家族会・訪問時手紙や電話でも問いかけ、何でも言える雰囲気作りに留意し、ミーティングやノート活用で反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より代表者、職員の間に入り、職員の意見や不満を受け入れてバランスを取っている、又申し送り時に意見要望や提案等を出されたらコミュニケーションを図り、問いかけたり聞いたり、又家族アンケートに出された意見要望に対してもケアの活用の一環として取組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け支援をし、活かせる業務環境作りに努めている、職員の定期健診も行き、心身の健全育成に努めている。管理者自身にも指導教育を行い、職員に過度な勤務体制にならぬよう指導し、環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し職員のレベルに応じ、なるべく多くの職員が受講出来る様行なっている。又報告等は定例会で発表している、新人研修は数日間マンツーマン体制をとり指導実地している又問題がある職員に対しては個人面談も行いより良いケアを行う様に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度グループホーム連絡協議会玉名郡市支部会の研修事例発表を通じ、意見や経験をケアに活かしている。又他ホームとの交流も行いサービスの向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談以前に既往歴や生活歴等を把握しておき面談時に出来るだけ理解対応出来る体制をとれるように準備しておく、又面談時には本人の今の気持ちや意見を聞き入れ、受け入れの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めているものを理解し、どのような対応が出来るかを事前に話し合いをしている。傾聴し状況等を把握し、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時や面接時などでの、会話の中で気付いた事や、必要な事に相談を持ちかけている。又、早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行なっている。改善に向けた支援の提案と信頼関係を築きながらサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が出来ることを見極め、手伝いや協働を求め共同生活への意欲を高めつつ感謝の気持ちも伝え施設内での役割や立場を確立していただけるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や職員の思いを伝達することにより、ご家族様と職員の思いが重なり協力関係が築けることが多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に(床屋・美容院等に)、定期的に行かれ楽しく交流がなされ、送迎の支援を行い地域との関係が継続出来るよう取り組みに努力している。又認知症が進行している方には回想法を使い日常会話に取り入れたり手紙や写真を見せる等の工夫をして関係が途絶えない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を傾聴したり、相談に乗ったり、楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りになる様に働き掛けをしている。又時には職員が間に入り関係作りに貢献している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ転所される場合、支援状況を手渡して、情報提供等交換を行い、行事への声掛けや継続的な付き合いが出来る様心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし希望、意向の把握に努め、ご家族様や関係者からも情報を得て、ケアにあたり、又ご本人本位になる様に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との語らいの中、ご家族様や知人の来所時に少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解し、行動、動作を感じ現状の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の気持ちや意見を元に、日々の関わりの中での職員の観察、気づき、思い等の意見を聞いて反映させ、アイデアも反映させている。現状に応じた介護計画が作成されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックス、個人ファイルを用意し状況把握とケア記録、情報を共有しながら介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まず第一にご本人様や御家族様の気持ち、要望に添えるよう考え臨機応変に対応している。又状況に応じて、外出や病院送迎支援にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心に暮らせる様、各機関と協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や隣接の母体医院等、ご希望の医療機関となっている。専門的な治療を要する際は主治医より紹介状を頂き専門医受診支援も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者様の健康管理や状況変化に応じた支援を行なっている。相談助言と対応も行なっている。医療機関との連携の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、ご本人様の支援方法に関する情報提供をし、見舞い時に医師、看護師ご家族様と話すの機会を持ち、対応可能な状態で、なるべく早く退院可能になるアプローチをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の気持ちを大切にしつつ、ご家族様と話し合い、終末期を安心して過ごしていける様に取り組む努力を行なっている。事前アンケートを取り情報を得、希望に沿うよう、ご希望があれば看取りをホームで迎え、終末期を支援する意向である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、実践としては全員が対処対応出来ておらず、隣接医院への応援を依頼している。又毎年行われている応急手当や心肺蘇生法の研修に職員を参加させ、定例会議の場でレポートの発表、参加型の実技指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し定期的に消防署の協力を得て、避難誘導訓練及び消火器の取り扱い方法等、訓練し全職員が出来る様に実施している。地域住民参加の協力をも得、防災体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、ご本人様の気持を大切に考え、さりげないケアに心掛け、自己決定し易い言葉掛けを行いプライバシーの確保や尊厳を守る様支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは職員から提案はせず、自己決定を促し言い表せない方には、職員側で決定した事を押し付けず、思い、希望、関心、嗜好を見極め、選択肢を提案し自分で決める場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮し又日々の暮らしの中で、その人それぞれの個性を掴み、本人のペースに応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本はご本人様の意向で決定、職員は見守り、支援が必要時、手伝いをしているが自己決定困難な方は職員と一緒に考え支援している。その人らしさを保てるよう手伝いを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく全員一緒に食事が出来る様に個々にし、合った食べ方の工夫や食材の大きさ等にも工夫している。同じテーブルを囲み、楽しく食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。旬の食材をメニューに取り入れ食してもらったり、希望に沿うよう作り、一緒に準備、後片付けを行い家庭的な雰囲気作りをしている。又、外食や現代食も食される機会を設け、新たな刺激や喜びを味わってもらえるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な確保の時間を設定し、全員が談話の場としても活用出来る様工夫している。又、チェック表に記録し情報を共有、バランスの摂れた食事と量、飲み水による脱水防止にも努め支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けや、就寝前の義歯の洗浄に口腔ケアの重要性を理解し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様のサインや時間を把握し、排泄チェック表を使用し、トイレでの排泄を大切にし、誘導排泄を促し支援している。又トイレ介助を要する場合も出来る範囲内での残存機能を活かしたケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を考慮して食材に工夫として、繊維質の多い食材、乳製品を取り入れたり、身体を動かす(体操・レク・戸外散歩)機会を設け、工夫し取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員のローテーションにより、一人一人の希望、タイミング合わせが困難、午後よりある程度の予定を組み順番を決めゆっくり入浴してもらったり、体調に応じた入浴を行い満足感を得られている。拒否などがある方に対しては、職員間で対応方法を共有し、気分よく入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	考慮して休憩を取り入れる様支援もしており、就寝前、温かな飲み物を夕食後1～2時間経ってお出しして、飲みながらゆっくりテレビを見たり、おしゃべりをしたりして支援している。消灯時間になり居室に戻られてからも、個々のペースで読書をされたり片付けをされているので、その様な時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋を基本情報としてとっており、内容把握が出来る様にしている、服薬服用確認と変更時に状態変化にも気をつけ、医療機関との連携も図っている。又、利用者様が安心して服用、飲み忘れが無いように薬袋にも工夫したり職員が薬を分ける時も、安全に間違いない様にファイルや入れ物に工夫を施しミスがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ、洗濯物たたみ、食器拭き等、得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるよう、出来そうな事を依頼し、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に応じ、毎朝、日中の戸外散歩の声かけや支援を行い、引きこもりや筋力低下防止に努めている。又個別にお買物支援やご家族様の協力を得、外出の機会や、行事の時に協力を得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を持ち、外出や買い物時に支払われる様支援している、加齢と共に物忘れも目立ち、ご家族様やご本人様と相談上、個々の希望に応じて、事務所保管で個々の金銭出納帳に記入し領収書を添付して定期的に御家族様のサインを貰い管理支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	早朝や夜間等は重要な事以外は控えてもらうようにしているが、その他はある程度希望に応じられる様に電話や手紙のやりとりも自由に出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に、入居者様の作品や自室居入り口に目印をつけたり、月ごとのカレンダー作成を共に取り組み、飾り付けをして季節感を意識的に取り入れる工夫や、玄関に季節ごとの花を生けたり、ゆっくりと過ごせるスペースを作り、その場所で外を眺めながら過ごせる工夫もしている。又ご家族様の意見を取り入れ廊下に温湿度計も設置しており常に把握出来る様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子を置き、心地良く一人でも過ごせる場所を設け、フロアでもソファーに座りテレビ・ビデオ・CDを設置し、家庭的な雰囲気作りに工夫をしている。又、職員が利用者様の間に入り、会話や交友関係の懸け橋になって頂けるよう気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごせる工夫をしている。必要と思われる物品も本人とご家族様に提案し本人の好みの物をご家族様に購入して頂くようにしている。又新たな楽しみを引き出せる様な工夫も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内印を壁に貼ったり居室入口のドアにそれぞれ表札を貼り、徘徊防止の工夫をしている。廊下にも不必要な物は置かないようにし、危険防止にも配慮している。自室にも今まで事故等を考慮し、手すりを取り付けたり、職員でアイデアを出し合い工夫を施すようにしている。		